

兵庫県神河町
トンネル個別施設計画
(長寿命化修繕計画)



令和元年 12 月
(令和 7 年 12 月改訂)
兵庫県神河町建設課

1. 長寿命化修繕計画の目的

(1) 背景

神河町が管理する水ノ谷トンネルは、1988年の建設から35年以上が経過している。近隣集落の迂回路としても使用されるため、適切な維持管理が必要とされている。

(2) 目的

今後増大が見込まれるトンネルの維持修繕費用に対し、計画的な補修が可能となるよう適切な予算計画を行い、安全性の確保とコスト縮減を図る。

2. 長寿命化修繕計画の対象トンネル

No	トンネル名	路線名	延長	幅員
1	水ノ谷トンネル	重行川上線	219.0m	6.3m

3. 基本的方針

定期点検は、「道路トンネル定期点検要領（平成31年3月 国土交通省 道路局）」に基づき実施します。部位毎に健全性を評価し、部位の重要度や損傷の状況などを総合的に勘案し、トンネル全体の健全性を診断することで個別施設の状態を4段階で判定します。

区分		状態
I	健全	構造物の機能に支障が生じていない状態
II	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態
III	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態
IV	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている。又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態

4. 対策の優先順位の考え方

健全度判定区分、第三者への影響度や路線の重要度を総合的に勘案し判断します。

5. 計画期間

定期点検は5年に1度の頻度で行うことから、前回の点検時期との間隔を明らかにするため計画期間は10年間とします。

6. 新技術の活用方針

計画・調査・点検・補修工事といった維持管理における各段階において新技術情報提供システム(NETIS)や点検支援技術性能カタログ(案)などの資料を参考に業務の高度化・効率化のため新技術導入の検討及び実施をすることで、コスト縮減及び業務の効率化を図る。

7. 費用の削減に関する具体的な方針

これまでの対症療法的な修繕や更新から、長寿命化修繕計画に基づいた計画的な維持修繕を実施することで、今後100年間で約30%のコスト縮減が見込まれる。

8. コスト削減の取り組み

新技術等の採用により更なるコスト削減に取り組みます。具体的には定期点検において新技術等を採用し、令和 10 年度までに約 30 万円のコスト削減を目指します。

町管理トンネルは県管理トンネルの唯一の代替路として機能しており、県管理トンネルは事前通行規制期間にあるため、異常気象時には通行できない可能性があります。その際、他に迂回路がなく（迂回距離は約 40 k m）社会活動等への影響は甚大であり、集約化・撤去を行うことは困難である。

※ただし周辺環境や施設の利用状況に変化があった場合など、再度検討を行います。

9. 計画策定担当部署

（１）計画策定部署

兵庫県 神河町 建設課

TEL：0790-34-0964

神河町トンネル個別施設計画一覧表

令和6年12月時点

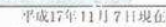
トンネル名	路線名	建設年次	延長	幅員	判定区分	全体概算事業費(千円)	計画	実施時期（●：実績、○：計画）									
								R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
水ノ谷トンネル	重行川上線	1988年	219.0m	6.3m	Ⅱ	47,500	点検計画	● 計画			● 点検		● 計画			○ 点検	
							補修設計		● 9,500								
							補修工事			● 38,000							

判定区分

区分		状態
I	健全	構造物の機能に支障が生じていない状態
Ⅱ	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態
Ⅲ	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態
Ⅳ	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている。又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態

対策内容

損傷	対策
うき	はく落防止対策工（はつり落とし工 + 繊維補強モルタル吹付）
漏水	漏水対策工（導水樋工）



1:50,000

[illegible]